

地域の貴重な財産である憩いの森などを守り育てるため、管理活動に必要な知識と技術の習得を目指す講座です。座学と実習を交えて、草刈りや中低木の剪定技術などについて学びます。

第8回
〈樹木③〉

「森の樹木の特徴と剪定方法を学ぼう③(竹の管理編)」

日時：令和7年1月25日(土) 9:30～12:30

場所：南大泉地域集会所(南大泉 5-26-19)

竹の子憩いの森(西大泉 1-22)



竹の特性と竹林管理について学びました。講義を受けたあと、森を確認し、竹の伐採の実習を行いました。また、レスプロソー等の電動工具の使用方法や注意事項も学びました。

実習前

実習後

実習前

実習後

①森の確認

②頭上・足元の確認

③伐採

④搬出

⑤枝払い

⑥玉切り

⑦仕上げ

レスプロソーでの玉切り

安全管理のポイント「竹の伐採」

竹の管理は、低木管理よりも危険を伴います。竹は背が高く、足元には地下茎が出ていることもあります。頭上の確認と足元の確認は、怠らずに必ず行いましょう。頭上で竹と樹木が絡み合い、枯れ枝が引っかかっていることもあり、落枝の危険があります。また、作業チームだけでなく、周囲への声掛けも大切です。倒す竹の真下に人が入らないようにも気をつけましょう。特に、直径15cm、高さ15メートルあるような大きな竹の場合、受け取れる大きさではありません。伐採する前に、倒す方向、切る方向を確認し、作業チームで共有し、周囲にも伝えましょう。安全第一で作業を行い、素敵な竹林を育ててください。



今回のキーワード「変化を楽しむ」

今回の実習地に面白い竹がありました。枯れた竹の真下から竹が生え、古い竹の中から新しい竹が出ていました。まるで、竹取物語のかぐや姫のように、生命の神秘を感じました。他にも、真横に生えた竹もありました。どちらも昨年は無かったものです。いつも見ている憩いの森でも変化があり、季節によるもの、植物の生長によるもの、お手入れによるもの等々様々です。自然と関わる時間を、無理なく生活に取り入れることで、今まで感じなかった変化を、感じるができるのではないのでしょうか。変化を感じ、それを楽しみ、憩いの森を活かす方法を考え、次世代へ繋げていってください。

